



CIVIC FORCE

NEWS LETTER Vol.16

ニュースレター (Nov, 2018)



「平成最悪の豪雨」と言われた西日本豪雨から 100 日。10 月 14 日、生活圏の 8 割が浸水するなど甚大な被害を受けた岡山県真備町で、弾き語りコンサートが開かれ、700 人も人が集まりました。主催者の一人、NPO 法人「岡山マインドこころ」の多田伸志さんは「みんなの気持ちが一つになって、たくさん泣いて、最後に“ありがとう”と言って別れていきました」と語ります © 川田航平



Contents

P2 被災地を支援する

【西日本豪雨】

- ・ 移り変わる被災地のニーズに対応
- ・ 「NPO パートナー協働事業」進行中

【北海道地震】

- ・ 緊急から復旧・復興へ
- ・ 「NPO パートナー協働事業」スタート
- ・ ご寄付のお礼とご報告

【東日本大震災】

- ・ 「夢を応援プロジェクト」被災地を結ぶ特別研修プログラム

P7 緊急即応体制を創る

- ・ 遺贈寄付受付中
- ・ メディア掲載

ほか

発行日：2018 年 11 月

発行：公益社団法人 Civic Force
〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷 2-41-12
富ヶ谷小川ビル 2 階

TEL：03-5790-9366

e-mail：info@civic-force.org

URL：http://www.civic-force.org

「日常まだ遠い」

6 月の大阪北部地震や 7 月の西日本豪雨、度重なる台風、9 月の北海道地震・・・これほどたくさんの自然災害に見舞われた年が、かつてあったでしょうか。特に河川の氾濫や土砂災害で 200 人以上が亡くなった岡山・広島・愛媛県など西日本豪雨の被災地では、その後の大型台風で被害がさらに拡大しました。

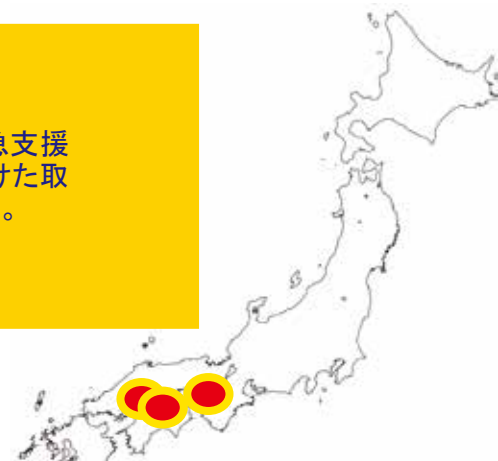
被災した地域ではすでに多くの避難所が閉鎖され、避難者は仮設住宅などへの入居を始めていますが、「震災後、生活は一変したまま」「日常はまだ遠い」という人が大勢います。廃業に追い込まれる企業や福祉施設が相次ぐなか、人口減少という新たな課題に直面する街もあります。復旧工事は来年以降も続き、被災した街の再生は、まさにこれからが正念場です。

西日本豪雨や北海道地震の甚大な被害を受けて、発災直後に医師や救助犬を含む緊急支援チームを結成した Civic Force は、ヘリなどで被災地へ向かい、行方不明者の捜索活動を開始。同時に、被災地の災害対策本部や避難所をまわってニーズ調査を行い、提携する企業と協力して下着や衛生用品などの物資を届けました。また、泥かきや清掃などを担うボランティアの派遣など各地のニーズに合わせて活動する団体との「NPO パートナー協働事業」が進行中です。

今月のニュースレターでは、西日本豪雨と北海道地震の被災者支援活動についてご報告します。また、東日本大震災「夢を応援プロジェクト」の一環で実施した奨学生向けの合宿研修についてご紹介します。

被災地 を 支援する

日本各地で発生する災害時の緊急支援活動や被災地の復旧・復興に向けた取り組みなどについてお知らせします。



西日本 豪雨

移り変わる被災地のニーズに対応

西日本各地で降り続いた記録的な大雨の影響で、甚大な被害が発生しました。7月5日、行方不明者が多数出ているとの情報を受け、Civic Force は佐賀に拠点を置くアジアパシフィックアライアンス・ジャパン（A-PAD ジャパン）と、緊急支援のピースウィンズ・ジャパン（PWJ）とともに緊急支援チームを立ち上げ、被災地へ向かいました。出勤から今日までの動きをまとめました。

7/5 豪雨発生



緊急支援物資の調達・配送

発災直後からニーズ調査を開始し、自治体や企業、NPO などと協力しながら、避難所や在宅避難者に緊急支援物資を配布しました。



NPOパートナー協働事業

刻一刻と移り変わる被災地のニーズに応え続けるために、災害支援専門の NPO や被災地発の団体の復旧・復興の取り組みをサポートしています。p3 に詳細。

レスキュー&医療支援

発災翌日、医師とともにヘリと水陸両用車で被災地に入り、水没したまび記念病院（岡山）の患者を救出。救助犬による行方不明者の捜索や仮設診療所の立ち上げにも携わりました。



トレーラー・コンテナの貸与

パートナー団体と協力して複数のトレーラーを被災地に運び、患者の診療にあたる医師の仮設診療所として利用しました（7月末まで）。現在、地域の訪問看護を担う NPO 団体などに貸し出し、日夜働き続ける看護師たちの事務所や地域の人々の憩いの場として活用されています。



「NPO パートナー協働事業」6 団体とのプロジェクトが進行中

西日本豪雨の被害を受けた地域の復旧・復興をサポートするため、2018 年 8 月から「NPO パートナー協働事業」を開始し、これまでに 3 県で 6 団体との協働プロジェクトが進行中です。

ひちくボランティアセンター



引き継がれる災害経験～大分から愛媛へ

ひちくボランティアセンターが拠点を置く大分県日田市は、2017 年夏に豪雨の被害を受けた被災地の一つ。1 年前の経験を生かし、西日本豪雨後、日田市職員とともに愛媛県宇和島市へ入り、災害ボランティアセンターの運営をサポートしました。また、ボランティアバスの運行を通じて水没した家屋や田畑の泥出しなどを行いました。現在は、災害の影響を受けたみかん農家などの復旧支援や、宇和島と日田の住民による被災地間交流を予定しています。

被災地 NGO 協働センター

近隣県から効率的に被災地へ！

阪神・淡路大震災以降、各地の国内災害に対応してきた被災地 NGO 協働センターは、7、8 月の週末、広島と岡山、丹波の被災地に人材を派遣するボランティアバスを運行。神戸・島根・山口から述べ 141 人が参加し、家屋や田畑の泥出し、炊き出しなどを担いました。同センターのボランティアバスの特徴は、受け入れ地域の人々と参加者が交流できる時間が多く設けられていること。参加をきっかけに「もう一度訪れたい」と話す高校生もいました。



そーる訪問看護ステーション

仮設事務所で訪問看護の継続と地域づくり



岡山県倉敷市真備町で訪問看護事業を担うそーるは、今回の豪雨でスタッフの自宅や事務所が被災。厳しい状況のなか、利用者や家族と連絡を取り合って全員の安否を確認し、主に在宅利用者へのサービスを続けています。また仮の事務所として利用中の Civic Force のトレーラー内外に全国から集まった支援物資を置き、在宅避難者らに配布。10 月からはカフェの運営や健康チェックなどを通じて地域の人々が集まる場づくりの活動にも力を入れています。

岡山マインド「こころ」

「地ビールと音楽の夕べ」復活祭に 700 人超

心の病を抱えた当事者・家族とともに 2002 年 3 月に真備町で設立された岡山マインド「こころ」。豪雨でグループホームと地ビール醸造所、ビアホールなどが被災しましたが、地域の家々の泥出しや清掃を行うボランティアを組織し、8 月から毎月「地ビールと音楽の夕べ」を復活開催。10 月には 700 人が集まり、音楽を楽しみながら被災後の思いを語り合う場を創出しています。地域の復旧・復興を担う「お互いさまセンターまび」の設立にも参画しています。



九州キリスト災害支援センター看護部

福祉的避難所「まきび荘」に看護師派遣

持病の高齢者や発達障がい児を含む約 50 人が避難する真備町の福祉的避難所「まきび荘」で、看護師 1 名が運営サポートに入っています。Civic Force との協働事業では、避難生活の長期化に伴い不足しがちなタンパク質や食物繊維、ビ

タミン、ミネラル、カルシウムなどを補う栄養改善プロジェクトを展開中。特に栄養に配慮した食事が必要な避難者へのサポートを続けているほか、インフルエンザや感染性胃腸炎の流行に備えて保護隔離室の設置も進めています。

だっぴ

被災した高校生が前へ進めるように

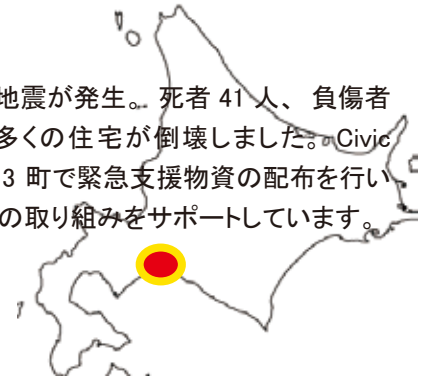
中学生から大学生、若手社会人に向けたキャリア支援などを行うだっぴは、10 月、被災した生徒が通う岡山県の高校でキャリア支援プログラムを実施しました。被災地の大人や大学生、東日本大震災の経験者などと交流しながら、胸にし

まっている気持ちを言葉に出し未来に向かえるような機会となりました。11 月には甚大な被害を受けた真備町の「まびフェスティバル」に参加し、被災していない中高生たちも一緒に被災地について考える機会を提供する予定です。

北海道 地震

緊急支援から復旧・復興の後押しへ

9月6日、最大震度7を観測する北海道胆振（いぶり）東部地震が発生。死者41人、負傷者691人の犠牲者が出て、厚真町、安平町、むかわ町では多くの住宅が倒壊しました。Civic Forceは同日中に厚真町で行方不明者の捜索を開始し、以降3町で緊急支援物資の配布を行いました。また、NPOパートナー協働事業を通じて、地元NPOの取り組みをサポートしています。



9/6 地震発生



緊急支援物資の調達・配送

発災直後から避難所などをまわってニーズ調査を開始し、自治体や企業、NPOなどと協力して緊急支援物資を配布しました。



NPOパートナー協働事業

移り変わる被災地のニーズに対応するため、地域に精通する被災地発の団体などとともに復旧・復興をサポートしています。p5に詳細。



レスキュー

発災同日中に専用航空機とヘリで厚真町に入り、救助犬や医師とともに土砂くずれの被災現場で行方不明者を捜索しました。



トレーラーの貸与・巡回バス運行

昼夜復旧・復興に動く行政やNPOスタッフの休憩スペースなどとしてトレーラーを貸し出しています。また、断水が続く地域で温浴施設と避難所を結ぶ巡回バスを運行しました。これらの活動はパートナー団体と連携して行いました。



「共益投資基金JAPAN」との連携

打撃を受けた農林水産業の復旧・復興を後押しするため、産業復興を支援する「共益投資基金JAPAN」との連携を予定しています。

被災地の親子を応援！— NPO パートナー協働事業

北海道胆振東部地震の被災地でも、2018年10月から「NPO パートナー協働事業」を開始しています。11月から2団体との協働プロジェクトが実施されています。

いぶり自然学校



被災地の子どもたちに遊び場を

苫小牧市東部地区（苫東）を拠点に地域の子どもや親子の自然体験活動を続けてきたいぶり自然学校は、地震発生翌日から苫東や安平町、厚真町、むかわ町で倒壊施設の解体や災害ボランティアセンターの立ち上げ、ボランティア受け入れなどを主導。同時に、地震の影響を受ける親子の心労を「木育」というキーワードで癒す自然体験プログラムを展開しています。

ezorock (エゾロック)

イベント会場での環境対策活動や国立公園の自然保護など北海道各地で様々な活動を展開する ezorock。先進的な防災のまち・澄川（札幌）で地元団体と防災意識の向上を目的に乾燥野菜の製造・販売を行い、乾燥野菜を地震で被災した厚真町に届ける活動も実施。パートナー協働事業では、乾燥野菜の製造から販売までを被災地の子育てグループなどに伝え、雇用や地域づくりにつなげる計画です。

北海道産の乾燥野菜で被災地を応援！



ご寄付のお礼とご報告

西日本豪雨：3,775 万円
北海道胆振東部地震：1,272 万円

(10月末時点、運営費15%含む)

7月の西日本豪雨の発生から4カ月、そして北海道胆振東部地震から2カ月以上が経ちました。Civic Forceの緊急支援活動は、みなさまのご寄付によって支えられています。国内外の企業・個人の皆さまから多大なるご支援をいただき、改めてお礼申し上げます。被災者の皆さんから寄せられた”声”をお届けします。

被災地の復旧・復興はまだ道半ばで、むしろこれからが正念場です。Civic Forceでは現在、「NPO パートナー協働事業」を通じて、被災した地域の人々の主体的な復興の取り組みを後押ししています。引き続きご関心をお寄せください。

ご寄付受付中！

【西日本豪雨（指定寄付）】
三井住友銀行 青山支店
普通 6977180

【北海道地震（指定寄付）】
三井住友銀行 青山支店
普通 7027390

ゆうちょ 00140-6-361805
※通信欄に「北海道」「西日本」と記載ください

《VOICE》

「ずぶ濡れのまま避難所へ。やっと着替えられてホッとしました」@広島
「温かく健康的な食事がありがたい」@料理研究者による炊き出し会場
「夜間でも医者に診てもらえて安心」@トレーラーの仮設診療所（岡山）
「浸水した事務所の代替施設にトレーラーを活用中」@岡山
「たくさんさんの絵本に子どもたちも大喜びです」@愛媛



「夢を応援プロジェクト」 被災地を結ぶ特別研修プログラム in 大分県日田市

東日本大震災で被災した高校生・大学生のための奨学金プログラム「夢を応援プロジェクト」では、毎年夏、奨学生向けの特別教育プログラムを実施しています。

今年は、8月1日から6日間、2017年7月に豪雨の被害を受けた大分県日田市で実施しました。東北から参加した3人の奨学生（大学生）を受け入れてくれたのは、日田市災害ボランティアセンターの運営をサポートしてきた「ひちくボランティ

アセンター」（Civic Force 「NPO パートナー協働事業」連携先）です。

主な訪問先は、今も100人近くが仮設住宅などで暮らす小野地区。土砂崩れの現場や寺院などを訪問し、発災直後の状況などについて聞きました。また、地域の子どもたちに東日本大震災の経験を伝えたり、西日本豪雨の被災地にメッセージを送るプログラムに参加。一緒に宿題をしたり、流しそうめんを楽しみながら交流しました。

「これまでの恩返しを」

岩佐佳奈さん
東北学院大学4年（宮城県出身）

「7年前の震災で知人を亡くしたり本当に大変でしたが、たくさんの物資が届き、中学生活はすべていただいたもので過ごしました。今回これまでの恩返しをしたくて、大分のプログラムに参加しました。

西日本豪雨で被災した愛媛県に土嚢を送るプログラムで子どもたちが蛍の絵を描いていたのが印象的でした。豊かな自然の中で過ごす貴重な体験をさせてもらいました」

「活発で元気な子どもたち」

阿部祥子さん
都留科大学3年（岩手県出身）

「大分の子どもたちの前で、東北の震災から3日間親と会えず体育館で不安な日々を過ごしたことを話しました。あの震災以降、他の地域で災害があると聞くと、被災した人はどんなにつらいだろうかと考えます。大分で出会った子どもたちは予想していたよりも元気で活発でした。学校が被災して遊ぶ場所がなくなっても、子どもたちがのびのびできるような地域の皆さんが協力しあっていました」

「今度は自分が被災地へ」

前川日菜子さん
中央大学4年（福島県出身）

「福島県相馬市で被災しましたが、これまでさまざまな支援に支えられてきました。学生最後の年に『今度は自分が被害にあった人の力になりたい』と参加を決めました。

子どもたちは元気に見えただけで、きつとそれぞれの悩みがあるはず。成長していく過程で起きた災害の影響は大きいけれど、日田の素晴らしい自然や人に囲まれながら元気に育ってほしいです」



緊急 即応体制 を創る

大規模災害時の緊急即応体制を整えるためのさまざまな取り組みを行っています。メディア掲載やご協力いただいている皆様の関連情報もお知らせします。

緊急即 応体制

遺贈寄付のご案内

災害の多い日本では、誰もがいつ被災者になってもおかしくありません。「大切な財産を被災地支援に役立てたい」とお考えの方は、ぜひ一度ご相談ください。Civic Force は、2009 年の発足以来、組織や立場を超えて連携することで、被災地に迅速かつ大規模な支援を届けてきました。今後も災害時の支援活動を継続してまいります。

ご遺産からの寄付は、「遺贈」と「相続財産寄付」という 2 つの方法があります。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.civic-force.org/contribution/legacy/>

緊急即 応体制

もっと気軽に応援！

企業のご協力で以下サイトでもご寄付を受け付けています。

《西日本豪雨》

■Yu Nagaba X BEAMS チャリティー T シャツ
<https://www.beams.co.jp/item/beamst/t-shirt/71080006349/>

■ジャパングビング
<https://japangiving.jp/campaigns/33840>

■GlobalGiving (英)
<https://www.globalgiving.org/projects/flood-and-landslide-relief-in-japan-we-need-you/>

《北海道地震》

■BEAMS JAPAN 『日本列島』北海道 T シャツ
<https://www.beams.co.jp/item/tokyocultureart/t-shirt/58040764515/?dcolor=1>

■ジャパングビング
<https://japangiving.jp/campaigns/33873>

■GlobalGiving (英)
<https://www.globalgiving.org/projects/hokkaido-japan-earthquake-rescue-medical-operations/#menu>

《東日本大震災》

■PSC 「クリック募金 (東北支援)」
<http://www.psc-inc.co.jp/clickdonation/index.html>

■バリューブックス「ブックスフォー・ジャパン」
<http://www.booksforjapan.jp/action/>

《一般寄付》

■本棚お助け隊「古本チャリティ募金」
<https://hondana.biz/second-hand-books-selling-for-charity/charity.html>

■EC ナビ「スマイルプロジェクト」
https://ecnavi.jp/smile_project/

メディア

NHK「あさイチ」など

以下にて Civic Force の活動が紹介されました。

《西日本豪雨》

-7月10日放送 NHK「あさイチ」

-7月18日放送 NHK「ニュースウェブ」

-7月23日放送テレ朝「報道ステーション」

《北海道地震》

-9月10-11日ラジオ TOKYO FM「中西哲生のクロナス」

緊急即 応体制

1日33円から
できることがあります

次の大規模災害に向け、平時から備えておくために、皆様の力が必要です。マンスリーサポーターとして、毎月定額(1,000円単位)をご寄付いただく形で、大規模災害にともに備えてください。

■銀行：三井住友銀行 青山支店 普通 6953964

■ゆうちょ：00140-6-361805

(上記いずれも口座名義は「コウエキシャダンホウジン シェックフォース」です)

■クレジットカード：HP「オンライン募金」をクリックしてください。

https://bokinchan2.com/civicforce/donation/bokin/page1.php?bokin_type=donation

※ニュースレターのバックナンバーは、

<http://civic-force.org/news/monthly/> からご覧いただけます。





CIVIC FORCE